

■日本小児神経外科学会役員選挙について

一般社団法人日本小児神経外科学会第5期理事の立候補者を公示します。

なお、役員選挙の投票期間は2025年3月3日から3月9日（電子投票による）とし、評議員メンバーリストでご案内いたします。

2025年2月10日

一般社団法人日本小児神経外科学会

理事長 埜中 正博

総務委員会担当理事 栗原 淳

【信任希望理事】（8名 五十音順）

埜中 正博	関西医科大学脳神経外科
赤井 卓也	富山大学医学部脳神経外科
加藤美穂子	あいち小児保健医療総合センター脳神経外科
河村 淳史	兵庫県立こども病院 脳神経外科
栗原 淳	埼玉県立小児医療センター脳神経外科
下川 尚子	久留米大学医学部脳神経外科学講座
朴 永銖	奈良県立医科大学脳神経外科
山本 哲哉	横浜市立大学脳神経外科

【新任理事候補】（5名 立候補届出順）

西山 健一	新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター脳神経外科
吉藤 和久	北海道立子ども総合医療・療育センター脳神経外科
黒住 和彦	浜松医科大学脳神経外科
石崎 竜司	静岡県立こども病院脳神経外科
林 俊哲	宮城県立こども病院脳神経外科

※次ページより新任立候補者の抱負を掲載いたします。（立候補届出順）

※年齢は2025年4月1日現在

氏名 西山 健一	所属 新潟県厚生農業協同組合連合会新潟医療センター 脳神経外科	59歳
----------	---------------------------------------	-----

このたび、日本小児神経外科学会第5期役員選出選挙におきまして、理事に立候補いたします西山健一です。1998年より27年間、本会会員として小児脳神経外科医療に携わり、国内外での豊富な臨床・研究経験を通じて、多くの患児と向き合ってきました。その経験を礎に、本会の更なる発展に寄与したく存じます。

時代の変化に伴い、本会が取り組むべき課題は多岐にわたっています。特に、私は以下の3点に注力したいと考えております。

1. 国際協調の推進

2008年にベルリン・シャリテ大学でクリニカルフェローを務めて以降、ISPNやIFNEでの役員活動を通じて国際的な交流を深めてきました。これらの活動を通じて培ったグローバルなネットワークを活用し、国際共同研究の推進とともに、日本の小児神経外科学の存在感をさらに高めるための取り組みを進めます。

2. 病を持つ子供たちの社会参画支援

少子化社会において、病を抱える子供たちが成人後も活躍できる環境づくりが求められています。私は地域医療の現場で培った経験を生かし、キャリアオーバー症例を包括的に診る仕組みづくりに取り組みます。これにより、患児の生涯にわたる健康支援を実現し、社会参画の機会を広げたいと考えています。

3. 外科手術の進歩

私は、日本小児神経外科学会の活動の根幹は、外科手術技術の進歩に寄与することと考えています。小児神経外科は、他の専門領域や関連学会との連携を通じて技術革新を進めることが不可欠です。人工知能やロボット技術の活用、精密外科技術のさらなる向上を目指し、国内外の関連学会や研究機関と協働することで、安全で高度な外科手術を実現する基盤を整えていきたいと考えています。また、新たな外科治療分野の開拓や手技の創造においても、本会が中心的役割を果たすべきと考えています。

これらの取り組みを通じ、小児神経外科医療の発展に寄与し、本会の存在意義をさらに高めてまいります。

本会の発展と、会員である皆様のご期待に応えるべく、全力を尽くしてまいります。どうか私の抱負をご理解いただき、温かいご支持を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

推薦者（五味 玲、下地一彰）

氏名 吉藤 和久	所属 北海道立子ども総合医療・療育センター 脳神経外科	56 歳
----------	-----------------------------------	------

このたび日本小児神経外科学会理事へ立候補させていただくにあたり、自身の紹介と抱負を述べさせていただきます。

私は、2006年に小児神経外科の専攻を決意し、前理事である師田信人先生（当時、国立成育医療センター）に師事、以降17年間北海道立子ども総合医療・療育センターで科長職を務めています。小児神経外科領域の中では特に先天疾患、水頭症、痙縮治療の経験が多く、学術活動、教育活動についてもこの領域で注力してきました。成人脊髄外科を専攻した経験から（日本脊髄外科学会認定医、機構認定脊椎脊髄外科専門医）、小児医療に対してもその視点を持ち合わせています。

本学会では2013年より学術委員、2019年より評議員となり、2019年より4年間広報委員会委員長としてホームページ整備に携わってきました。会員交流の場としてのほか、外部交流の場、社会への啓発活動の場としても重要視し、疾患情報ページ、英文ページ、また専攻医へ向けた学問以外の情報ページにも取り掛かりました。2023年からは渉外委員会委員長として、葉酸摂取に関する本学会声明文を、他団体へ流布・啓発する活動を進めています。

抱負

昨今の医療情勢をふまえ、「拠点病院への集約化」と「地域医療圏での治療完結」という二極を、同時に推し進めるべきと考えています。今後一つの治療選択肢となり得る二分脊椎胎児治療をはじめ、希少疾患治療においては（新生児期血管内治療や脊椎アライメント矯正など）まだまだ集約化が有利と思われれます。一方で緊急対応や成長に応じた綿密な診療は地域医療圏が担わなければなりません。全国レベルの有機的な集約化システム構築に、学会が上手く関わればと考えます。同時に、地域小児医療レベル上昇のためには、全国の認定医数増加が不可欠と考えます。

会員数を増やすためには、若手が小児神経外科の魅力に触れる機会を増やす必要があります。一具体案として「他の学術集会における小児のセッション数を増やす努力」をしたいと思います。会員への演題登録推進と学会同士の連携が必要になると考えます。認定医数を増やすためには、手術経験、臨床経験が得られやすいように、学会が各施設の特徴を紹介する事業なども一案と考えます。

これまでの委員会等における経験を糧に、さらに広い視点で課題を整理し、良策を見つけ、実現へ向け尽力したいと思います。

推薦者（下川尚子、朴 永鉄）

氏名 黒住 和彦

所属 浜松医科大学脳神経外科

54 歳

この度、一般社団法人日本小児神経外科学会理事へ立候補いたしました。これまでのキャリアを通じて、脳神経外科領域の基礎研究および臨床研究、脳神経外科手術、さらには小児神経外科の治療に尽力してまいりました。特に、脳腫瘍における分子標的治療や遺伝子治療の研究を進める一方で、臨床現場での患者中心の医療を重視してまいりました。また、留学を通じて培った国際的な視野を活かし、国内外での学術交流を推進し、研究成果を共有することで、医療の質を高める取り組みを続けてきました。

2020年に浜松医科大学の教授に就任して以来、小児神経外科学会の保険診療委員会および教育委員会の委員長として、多くのプロジェクトをリードしてまいりました。保険診療委員会では、診療現場における課題の改善や医療の質向上に取り組むとともに、技術改正や新技術の導入に向けた提案を行ってきました。特に、オンマヤリザーバー留置術やシヤント再建術に関する診療報酬改定の要望書作成を主導し、その採択に向けて尽力いたしました。

教育委員会では、JSPN 教育セミナーや Global Journal Club を通じて学会の教育的価値を高める取り組みを進めてまいりました。これらの活動は、国内外の専門家や若手医師との連携を強化する機会を提供し、日本の小児神経外科学をグローバルに発信する場を築いています。特に、海外の専門家との共同開催や国際的な学会活動への積極的な関与により、日本の学術的存在感を高める役割を果たしていると自負しております。

さらに、編集委員会の副委員長として、学術活動の推進や論文の質向上に努め、広報委員としてホームページの英文化を担当することで、学会情報の国際発信にも貢献しました。これらの経験を通じて、学会活動全体を支える基盤強化にも寄与してきたと考えております。

私の信念は、学術研究と臨床の双方を通じて、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供することです。また、小児神経外科学会を次世代の医師や研究者にとってさらに魅力的で価値ある場とするため、以下の点に注力してまいります。

1. 学術教育の推進

教育セミナーや地域カンファレンスをさらに拡充し、小児神経外科分野の最新知識の普及と若手医師の育成に努めます。また、生涯教育の重要性を踏まえ、すべての学会員が継続的に学べる仕組みを構築してまいります。

2. 国際的な連携の強化

AANS/CNS Section on Pediatric Neurosurgery など、海外の学術機関との連携をさらに深め、グローバルなネットワークを活用して共同研究や学術交流を活発化させていきます。

3. 実臨床への貢献

診療報酬制度の改定、新技術や先端治療の導入を支援し、医療現場での実践に直結する活動を推進します。患者さんの生活の質向上を目指し、現場のニーズを反映させた政策提言を行います。

私のこれまでの経験とネットワークを最大限に活かし、日本小児神経外科学会が国内外の医療従事者や患者さんにとってより価値ある学会となるよう尽力する所存です。皆様のご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

推薦者（埜中正博、加藤美穂子）

氏名 石崎 竜司	所属 静岡県立こども病院脳神経外科	55 歳
----------	-------------------	------

日本小児神経外科学会の理事に立候補しました静岡県立こども病院の石崎竜司です。私は、脳神経外科を専門とすると決めた頃から小児に興味を持っており、京都大学大学院でもラットの新生児期水頭症モデルによる研究を行いました。その後、滋賀県立成人病センターに赴任した時も滋賀県立小児保健センターで小児脳神経外科の外来と手術を行い、2006 年からは静岡県立こども病院で小児神経外科医療に従事し、現在は科長として後進の指導に当たっております。患者様、そのご家族に寄り添い未来につなげようと日々診療しております。

学会においては広報委員でホームページの作成、学術研究委員で虐待関連小委員会に関わり、編集委員として論文の査読を行い、総務委員としても携わっております。

また、私は、頭部外傷については、日本脳神経外傷学会認定指導医、理事となり、小児頭部外傷検討委員会に属しており日本小児神経外科学会との橋渡しを行っております。虐待については、BEAMS の資格を取って積極的に関わっており、静岡県内の他の病院、児童相談所や警察を含めた連携作りも行っております。

連携については、院内において、二分脊椎センター長として他科やコメディカルとの連携を図り、クラニオフェイシャルセンター、脳腫瘍カンファレンス・産科カンファレンス・虐待対策等でも他科との連携を図ってきました。静岡県内においては、静岡がんセンターとのカンファレンス以外に浜松医科大学や順天堂静岡病院とも交流を持ち、専門医前の先生のために、機能についてはてんかんセンター、脊髄については静岡県立総合病院での見学もできるようにしております。さらに中部地区について、東海北陸ブロック小児脳腫瘍セミナーや愛知や長野のこども病院とともに症例検討会も行っており連携を広げております。連携することにより、患者様にさらに質の高い治療を提供できることはもちろん、自己研鑽そして若い医師にとっても良い経験となり勉強になると実感しております。

また、後進の指導については、京都大学脳神経外科より 15 年近く毎年 4-8 人の専攻医の派遣を受けており、小児脳神経外科により興味を深めてもらうように症例の発表や論文作成も含めて教育指導を行っております。また臨床教授として京都大学の学生に小児脳神経外科についての講義を行い、その分野について関心を引き出しております。

理事に選考いただきましたら、日本小児神経外科学会の抱える会員を増やすという問題に取り組みたいと考えております。会員を増やすためには、後進の先生方に如何に小児脳神経外科に興味をもってもらうかという問題と、認定医に如何にチャレンジしてもらうかの問題があると考えます。今まで行ってきた経験をもとに、日本全体での施設間の連携を構築すること、専攻医や若い先生方が、様々な特徴のある病院に自由に勉強に行ったり、見学できる体制作り尽力し、後進の指導についても検討していくことが解決策だと思います。何卒ご支援いただきます様よろしく願いいたします。

推薦者 (赤井卓也、河村淳史)

氏名 林 俊哲	所属 宮城県立こども病院脳神経外科	57 歳
---------	-------------------	------

日本小児神経外科学会理事に立候補するにあたり、抱負をのべさせていただきます。

私は東北大学医学部を卒業後に同大学脳神経外科にて脳神経外科臨床の研鑽を積んだのち、2003年に宮城県立こども病院が開設されるとともに東北地方唯一の小児専門神経外科施設の科長として赴任し、以後東北地方の小児神経外科医療に従事してまいりました。

私は小児神経外科医療は希少疾患である先天奇形や小児期特有の発症、病態や全身管理に対する知識、経験が必須であり脳神経外科医療の中のサブスペシャリティとして未来を担う小児の医療を担当する極めて重要な分野と考えております。

近年、本学会にて様々な委員等に就任し、活動を行っていくにつれ、小児神経外科医療に対する高い知識、臨床技量をもっている神経外科医師・施設は地方においては未だ充足しておらず、少なくない患者が十分な専門的医療を受けられていないことに気づきました。さらに、このような状況は地方のみではなく、大都市圏においても必ずしも患者が容易に対応可能な専門医にアクセスできる環境が整っているとは言えません。私は脳神経外科専門医教育において小児神経外科領域の教育普及に尽力したいと考えております。

また、ともすると外科治療に重きがおかれる神経外科診療であります。小児神経科医をはじめとした小児関連各科と診断や病態管理において密に連携するべきだとも考えております。私は小児神経学会の教育委員を務めている経験を活かして、脳神経外科にとどまらない診療連携を構築したいと考えております。

さらに、私は小児神経外科医療においては小児期の医療のみならず、AYA世代やそれ以降の移行期医療に大きな課題があると考えており、小児期以降にどのような問題があるのかを明らかとし、それを解決するために是非尽力したいと考えております。

これまで私は個人的な努力により地方における小児神経外科医療の底上げ、発展に努力してまいりました。この度立場を一步進めて本学会理事となり、我が国ひいては世界の指導的立場にある小児神経外科医と共に手を携えて様々な課題に立ち向かうことが挑戦すべき任務だと考えました。

私は小児神経外科に関連する学術的課題、社会的問題に対して決してひるむことなく真摯に粘り強く対応し、必ずや解決する意思を持っております。小児神経外科領域の教育、研究、臨床に貢献し、未来のあるこどもたちの将来を良きものとするために尽力したいと強く思っております。また、その過程においては人格的に誠実で公平であり、多様性に対して寛容であり、一人一人の価値観を尊重し、仕事にたいし真摯にとりくむことを約束いたします。

本学会理事に選考いただきましたら、学会の発展に大いに貢献するために努力を惜しまず、責務を全うできるよう最大限の努力いたします。

本学会理事に選考いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

推薦者（隈部俊宏、齋藤竜太）